

校長室より

「天空高き」



第150号



令和3年10月4日

第13回楽学祭—Breakthrough みんなで乗り越える～Love Your Life, 自分自身を大切に—

昨年に引き続きコロナ禍の中、第13回楽学祭が開催されました。

昨年の経験を基に、今年はステージを中心に二日間行われ、3年生は体育館で参観することができました。しかし、1・2年生と中学生は会場を別にしてのオンライン参加でした。残念なことに、今年も保護者等の参観は中止となりました。

今回新しい試みとして、クラス動画がありました。各クラス2分という時間の制約がありましたが、クラスの個性が反映され、大変興味深く視聴しました。特に、音楽に関しては高校生らしい、また中学生らしい選曲で、動画にリズムとテンポがありました。皆さんの豊かで鋭い感性に触れることができ、新たな刺激を受けました。

楽学祭は、運動会や修学旅行等と同様に大切な学校行事です。準備を含め多くの時間と手間暇（労力）が掛かります。しかし、学校行事がうまく行くかどうかは、どれだけ時間と手間暇（労力）をかけたかが大切です。氷山に例えれば、海水面に浮いている部分が当日の楽学祭で、海水面の下側が準備期間です。

右上の写真にあるように、多くの生徒会の諸君が今回の楽学祭の準備に関わってくれました。早朝に放課後に、そして休みの日を返上して、この楽学祭のために仲間と協働し多くの時間とその熱い思いを投入してくれました。たからこそ、無事第13回楽学祭を終えることができました。本当にありがとうございました。そして、お疲れ様でした。



本を読むことを止めることは、思索することを止めることである。

ドストエフスキー

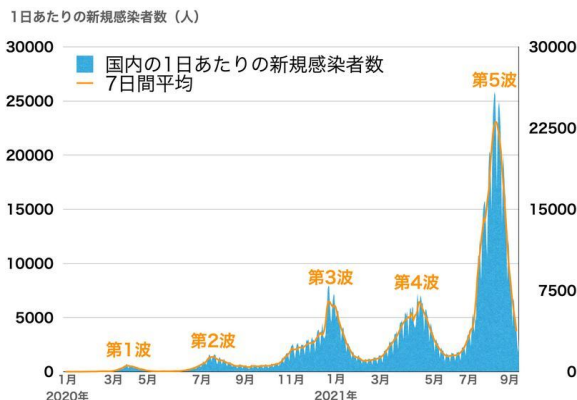
新型コロナウイルス—第6波に備えて—

グラフを見てわかるように、今までに、新型コロナウイルスの波が5回ありました。

回数を追うごとに感染者数が増大しています。今回の第5波は、短期間で感染者数が増大していますが、9月に入り急激に減少しています。

専門家ではないのでその原因はよくわかりませんが、ワクチン接種率が向上していることが関係しているのではないかと思います。

新型コロナウイルス感染症に対する集団免疫は、60～70%の接種率で達成できる可能性があるとして試算されていました。9月末で約7割の接種率です。集団免疫の効果が出てきたのではないかと思います。



厚生労働省オープンデータ

政府が9月末で、9都道府県に対する緊急事態宣言と、8県へのまん延防止等重点措置の全てを解除しました。しかし、私たちは緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が終了しても、引き続き決して油断することなく、基本的な感染症対策を徹底していきましょう。また、ワクチン接種を希望する者は地域の情報を確認し手続きを取ってください。

これからも修学旅行やインターンシップ、中学生は30 km遠足やオータムセミナーなどの大切な学校行事があります。毎日の検温と健康管理、3密を避け手洗いとマスクの着用、毎日の小さな積み重ねを大事にして、次の波を小さくしていきましょう。

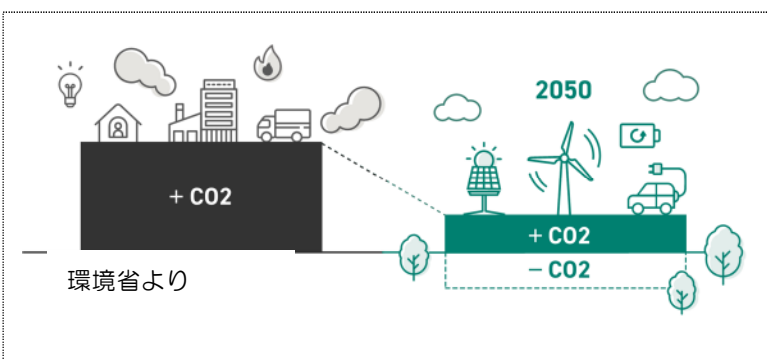
カーボンニュートラル—脱炭素社会を目指して—

聞きなれない言葉だと思いますが、カーボンニュートラルとは温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを意味します。

温室効果ガスには、CO₂・メタン・一酸化二窒素・フロンガスなどが含まれます。

2020年10月の臨時国会の所信表明演説において、菅義偉前内閣総理大臣は、「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。

この背景には、地球規模の課題である気候変動問題の解決に向けて、2015年にパ



り協定が採択され、世界共通の長期目標として、世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求すること。(2℃目標)や今世紀後半に、温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡を達成すること等を合意したからです。

この実現に向けて、日本を含め世界中の国々が取組を進めており、120以上の国と地域が「2050年カーボンニュートラル」という目標を掲げています。

世界の平均気温は2017年時点で、工業化以前(1850~1900年)と比べ、既に約1℃上昇したことが示されています。このままの状況が続けば、更なる気温上昇が予測されます。

近年、国内外で様々な気象災害が発生しています。個々の気象災害と気候変動問題との関係を明らかにすることは容易ではありませんが、気候変動に伴い、今後、豪雨や猛暑のリスクが更に高まることが予想されています。日本においても、農林水産業、水資源、自然生態系、自然災害、健康、産業・経済活動等への影響が出ると指摘されています。

こうした状況は、もはや単なる「気候変動」ではなく、私たち人類や全ての生き物にとっての生存基盤を揺るがす「気候危機」とも言われています。

カーボンニュートラルの実現に向けて、誰もが無関係ではなく、あらゆる主体が取り組む必要があります。省エネ対策、太陽光など再生可能エネルギーの利用、植林など、考えられるあらゆる対策を世界で協働して取り組んでいかなければなりません。

将来の世代も安心して暮らせる持続可能な経済社会をつくるため、今から、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けて取り組む必要があります。私たちも地球の一員です。一人ひとりが関心を持って身近なことから取り組んでいきましょう。

秋の七草 一葛(くず)一

さわやかな季節になりました。勉学にスポーツそして食べ物がおいしい時期になりました。

ところで、右の写真にあるのは、皆さんにおなじみの葛です。秋の七草の一つです。

(※秋の七草：オミナエシ、ススキ、キキョウ、ナデシコ、フジバカマ、クズ、ハギ、頭文字をとって「お好きな服は」と覚えると覚えやすいです)



葛は、まわりの木々をつるでおおってしまう程の強い生命力を持ち、ひと夏で10mぐらい生長します。葛は大豆の仲間でマメ科のつる草で、花は8月から9月にかけて開花します。しかし、葛は花から根まで余すことなく利用することができます。

葉は湯がいて食することができ、花は乾燥して二日酔いの薬に、つるの繊維部分は「葛布(くずふ)」として着物、帯、草履、カーテン等の素材として、根には、多量のでんぷんを含んでいるので葛粉(くずこ)が取れ、葛餅(くずもち)の原料になります。また、葛湯と聞くとあまり聞き慣れないと思いますが、「葛根湯(かっこんとう)」

として漢方薬に用いられてきました。葛根湯は、解熱鎮痛の効果があり、熱のある風邪、筋肉のこわばりに効果があります。

このように葛は、日本書紀にも記載があるほど古くから日本人の生活に深く関わり、親しまれてきました。

葛はどこでも手に入ります。皆さんも一度、葛のどの部分でもいいので食してみてください。

10月の月間目標

本を読む

令和3年度
チャレンジ目標

- 1 明るい挨拶
- 2 5分前行動
- 3 交通ルールを守る
- 4 1%を誰かのために

私は高校1年生の時、国語の先生の影響で本を読み始めました。夢中になったのは、北杜夫の「ドクトルマンボー」シリーズでした。

大学時代もそれなりに本を読んでいましたが、教員になってからは、あまり本を読まなくなりました。言い訳をさせてもらおうと、授業と部活指導と子育てでその余裕がなくなりました。

再び、本を読み始めたのは、本校が読書タイムを始めた15年前からです。

本を読めば読むほど、いかに自分がモノを知らなかったかを思い知らされていますが、ノーベル平和賞を最年少で受賞したマララ・ユサフザイさんは、「一冊の本が世界を変える」と国連本部でスピーチしました。

一冊の本との出会いが自分を変え、世界を変えることができます。

是非皆さんもその出会いを早く見つけ、読書の

素晴らしさを実感してください。

二十四節気

『寒露(かんろ)』10月8日 寒露とは、晩夏から初秋にかけて野草に宿る冷たい露のこと。秋の長雨が終わり、本格的な秋の始まりになります。この頃になると五穀の収穫もたけなわで、農家では繁忙を極めます。露が冷たい空気と接し、霜に変わる直前で、紅葉が濃くなり、燕などの夏鳥と雁などの冬鳥が交代される時期でもあります。この頃は、大気の状態が安定して空気が澄んだ秋晴れの日が多くなります。夜には月も美しく輝いて見えます。寒露の頃になったら、空を見上げてみてはいかがでしょうか。これまでと違った、秋の清々さと趣を感じる空に出会えるはずです。

『霜降(そうこう)』10月23日 秋が一段と深まり、朝霜が見られる頃。朝晩の冷え込みが厳しくなり、日が短くなったことを実感できます。初霜の知らせが聞かれるのも大体このころで、山は紅葉で彩られます。

※霜が降りる気温

霜が降りるには、その周辺の温度が0℃以下であることが条件ですが、気象庁で発表される気温は地上から1.5mの高さで観測しますので、気温が3℃と発表されていても、地面の温度は0℃以下になっていることもあります。農業はもちろん、花や植物の栽培にも霜は要注意。天気予報で予想気温が3~4℃であっても、霜対策をしておいた方がいいようです。

日本の行事・暦